

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

41期(1987/昭和62年)

楽しかった修習時代



会員 綾 克己 (41 期)

1 記憶の彼方

LIBRA に修習時代の思い出を書いて欲しいと頼まれ、解りましたと答えたものの、特別なエピソードや思い出が文章化できるほど具体的に出てこない。弁護士登録をしたのは、平成元年4月だったから、もう約35年前のことであり、詳細は覚えていないがとにかく楽しかったことだけは覚えている。いい機会なので、卒業して1度か2度しか開いたことのないアルバムを探し出して開いてみることにした。

2 アルバムからの記憶の喚起

B4サイズ横綴じの青い分厚い表紙のアルバムである。横綴じで左には白いくつもの糸が束になって綴じられている。表紙左上には修習生バッチの模様が、右下には1989の数字が、それぞれ金文字で刷り込まれている。

表紙を開くと、小野所長、柳瀬副所長の大きな写真が印刷されており、更にめくると当時の矢口最高裁長官、前田検事総長、藤井日弁連会長の写真が大きく掲載されている。さて、何組だったかよく覚えてないが、学友欄を開いていくと3組修習生欄のトップに私の若かりし頃の写真が掲載されていた。この頃は、たぶん体重が70キロ強だったと思うので、顎のラインもすっきりしており、我ながら一見なかなかの好青年である。

民裁の鳥越教官、片山教官をはじめ、刑裁の北島教官、検察中村教官、民弁岡部教官、刑弁高氏教官の写真の下に46名の修習生の顔写真が載っている。さすがに、全員覚えている。思い出の欄を開くと、くだけた皆の写真が次々出てくる。

残念ながら、修習時代の半分以上は実務修習なの

だが、実務修習の写真はアルバムには載っていない。

3 楽しかった修習時代

遺憾ではあったがなかなか司法試験には受からず、28歳でやっと合格したため、クラスの中ではどちらかという年長であった。しかし、やっと受かった解放感と、遅れた分を弁護士になってから取り戻すため、修習時代は最後の遊びの期間だと割り切って楽しく過ごした。

そのため研修所の成績は良くなかったと思う。

前期修習で授業が始まった頃、湯島の研修所には燦爛と朝日が降り注いでいた。座席はあいうえお順だったので、私は1番であり正にぼかぼかと温かい朝日が直撃する席であった。午前9時授業開始であったが、前日は当然のことながら社会勉強に勤しみ深酒をして体力を消耗しており、授業は苦手の刑事裁判であった。北島教官の授業が始まった途端に強烈な睡魔が襲ってきた。コクリコクリしていたが、もう耐えられないのでネクタイを外してうつ伏せになって寝てしまった。決して北島教官の講義がつまらないとかそういう問題ではない。程なくして、北島教官の怒声が飛んできた。さすがに、やばいと思った。

二回試験の時には、北島教官が面接試験官であった。その時は、仏のような顔をされていたが、私が助け舟になかなか乗らないので、だんだん険しい表情になった。

何とか二回試験は通ったものの、後に北島教官から面接のときにはひやひやしたよ、卒業できてよかったなと言われた。

北島教官、その他教官の方々、同期の皆さま、どうも有難うございました。